

第91回総合科学技術会議議事要旨

(日時) 平成22年7月16日(金) 16:30～16:58

(場所) 総理官邸4階大会議室

(出席者)

議長	菅 直人	内閣総理大臣
議員	仙谷 由人	内閣官房長官
同	川端 達夫	科学技術政策担当大臣・文部科学大臣
同	直嶋 正行	経済産業大臣
同	相澤 益男	常勤(元東京工業大学学長)
同	本庶 佑	常勤(京都大学客員教授)
同	奥村 直樹	常勤(元新日本製鐵(株)代表取締役副社長、技術開発本部長)
同	白石 隆	常勤(元政策研究大学院大学教授・副学長)
同	今榮 東洋子	非常勤(名古屋大学名誉教授)
同	青木 玲子	非常勤(一橋大学経済研究所教授)
同	中鉢 良治	非常勤(ソニー株式会社取締役代表執行役副会長)
臨時議員	荒井 聰	国家戦略担当大臣
同	小沢 鋭仁	環境大臣
同	山田 正彦	農林水産大臣(代理 郡司 彰 副大臣)
	平岡 秀夫	科学技術政策担当副大臣・国家戦略担当副大臣
	中川 正春	文部科学副大臣
	大串 博志	財務大臣政務官

(議事次第)

1. 開会
2. 議事

(1) 平成23年度の科学・技術に関する予算等の資源配分の方針(決定・意見具申)

- (2) 科学・技術重要施策アクション・プランについて（報告）
- (3) 第4期科学技術基本計画策定に向けた検討状況（報告）
- (4) 国家的に重要な研究開発の評価（決定、通知）
- (5) 最先端研究開発支援プログラムの加速・強化に関する対象課題及び配分額について（決定）
- (6) 最先端研究基盤事業に係る事業計画の決定について（報告）
- (7) その他

3. 配布資料

- 資料1-1 平成23年度の科学・技術に関する予算等の資源配分の方針（案）（概要）
- 資料1-2 平成23年度の科学・技術に関する予算等の配分方針の方針（案）
- 資料2-1 科学・技術重要施策アクション・プラン（概要）
- 資料2-2 科学・技術重要施策アクション・プラン
- 資料3-1 科学技術基本政策策定の基本方針（概要）
- 資料3-2 科学技術基本政策策定の基本方針
- 資料4-1 国家的に重要な研究開発の評価（案）「ゲノムネットワークプロジェクト」の事後評価結果（概要）
- 資料4-2 国家的に重要な研究開発の評価（案）「ゲノムネットワークプロジェクト」の事後評価結果
- 資料5-1 最先端研究開発支援プログラムの加速・強化に関する対象課題及び配分額（案）概要
- 資料5-2 最先端研究開発支援プログラムの加速・強化に関する対象課題及び配分額（案）
- 資料6-1 最先端研究基盤事業に係る事業計画（概要）
- 資料6-2 最先端研究基盤事業に係る事業計画
- 資料7 平成21年度科学技術の振興に関する年次報告（平成22年版科学技術白書）
- 資料8 第90回総合科学技術会議議事録（案）

「平成23年度の科学・技術に関する予算等の資源配分の方針」、「国家的に重要な研究開発の評価」及び「最先端研究開発支援プログラムの加速・強化に関する対象課題及び配分額について」について決定し、「科学・技術重要施策アクション・プランについて」及び「第4期

科学技術基本計画策定に向けた検討状況」について報告の後、意見交換された。また、「最先端研究基盤事業に係る事業計画の決定」について報告された。

議題（１）、（２）に関する各議員の発言は以下のとおり。

【本席議員】

いよいよ民主党政権の初めての本格的科学・技術予算をつくれるということで、一言ぜひお願いしたい。

財政が非常に厳しい折だが、科学・技術政策というのは長期的なビジョンでぜひやっていただきたい。いわゆる一律削減というのは非常に科学・技術政策にはなじまないのではないか。

その具体的な例としては、前政権下で毎年一律１％削減で大学も研究独法もずっと６年間やってきたが、結局全部がじわじわと沈んでいる、これはやはりきちっとした改革、選択、集中をやっていく必要がある。特に２,５００億しかない基礎研究、こういったものは、必ずきちっと手当をしていただきたい。

よろしく願います。

【白石議員】

アクション・プランについて、特にこの先ほどの相澤議員の説明の１ページの２のアクション・プランのねらいと効果のこの中の②のところに、アクション・プランのねらいというのは、ムダの排除と質的充実とある。

ムダの排除というのは、もちろん実際に施策パッケージをつくって、現在ずっとヒアリングをやっているが、重複の整理、ムダの排除ということは、これは当然のこととしてやらなければならないが、それだけだと元気が出ないので、質的充実ということで、ぜひつけれるところには予算が場合によっては増えると、そういう形の仕組みをぜひ考えていただければということをお願いしたい。

【中鉢議員】

資源配分方針とアクション・プランというのは、政府の注力ポイントに対する国民と世界へのメッセージ、非常に重要なメッセージになると思う。

今、白石議員からお話があったように、財源が厳しい状況でムダの排除というのは必須であるが、あれもこれもという足し算による重複のムダはもとより、規模感の乏しい過剰な分散の

ムダというものも避けるべきだろうと思う。ぜひ減った、増えたというアマウントだけの議論に偏らぬよう、本質的な、選択と集中のプロセスそのものについての十分な説明も添えながら、国民の理解が得られるよう、政府一体となった対応をお願いしたい。

【中川文部科学副大臣】

さきほどの資源配分とアクション・プラン、これを関連させての発言をさせていただきたいと思うが、アクション・プランにおいて、資源配分、あるいは成長戦略を前提にして、グリーン及びライフという2つのテーマを絞って、これを重点的に、具体的に予算づけの中で生かしていくということが表現されたが、もう一方で資源配分のほうで指摘されている重点的に推進すべき課題、一言で言えば基礎研究、人財育成、あるいはそのプラットフォーム、土台をつくっていくという部分の重要性がアクション・プランの中では具体的に触れられていない。そこが抜けている。

具体的には、これからの格付け、S A B C評価の中でぜひこの基礎研究に係る部分をしっかり押さえていただいて、その中で具体的な施策として重要課題の1つというテーマの置き方をぜひお願いを申し上げたい。そのことを改めて指摘をさせていただきたい。

【奥村議員】

アクション・プランの意義はここに書かれているとおりで、これを技術の流れという側面で見ると、ご案内のように最近の技術はさまざまな知恵を、あるいは要素技術を組み合わせでできる。そうすると、従来のそれぞれの府省の得意とする分野、その技術だけではできないので、必然的に府省連携にならざるを得ない、そういう大きな技術の流れに沿ったものでもあるという、そういう意味もあるので、一言つけ加えさせていただく。

議題（3）に関する各議員の発言は以下のとおり。

【直嶋経済産業大臣】

今の基本計画の策定、基本方針についてだが、基本的にはグリーン・イノベーション、ライフ・イノベーションを最優先課題として研究開発成果の普及、それから国際標準化、制度改革等が盛り込まれており、極めて重要だと思っている。

今後の検討において、今、丸（資料中「政府研究開発投資のGDP比〇%」）と書いてある部分

のお話があったが、これも含めてさらに掘り下げた議論をぜひしていただけるようにご期待を申し上げる。意見ではなくて激励である。

【中川文部科学副大臣】

私も同趣旨だが、世界のコミュニティの中で日本が非常に縮んできている。あるいは特に事業仕分けのときにちょっとミスリーディングな報道があったため、それが非常に今こたえていて、世界の科学者と議論をすると必ずそれが出て来る。それだけに政府の意思として、この対GDP比1%を確保をしていくということをしかり内外に向けて意思表示をしていくということが非常に大事な局面に来ていると思う。その思いを込めて数値化していくということぜひ一緒に考えていただきたい。

【大串財務大臣政務官】

ご意見をいただいたので、またこの政府研究開発投資のGDP比のところは、長い議論がこれまでもあった。もちろん内容のアップグレードのところも、総合科学技術会議の皆さんとともに今進めていただいて、今回も予算編成方針自体から変えていくということでやっていただいた。こういう成果も踏まえながら、ただ総額ありきという形にはならないように、より良いものがつくれるようなところをしかり議論させていただきたいと思うので、どうぞ今後ともよろしく願います。

【平岡科学技術政策担当副大臣】

ここでプレスの入室をお願いします。

(報道関係者入室)

【平岡科学技術政策担当副大臣】

それでは、最後に菅総理からご発言いただきたい。

【菅議長（内閣総理大臣）】

平成23年度概算要求は、新成長戦略を実施する初年度であり、この成長戦略を実施するためには、これまでにない選択と集中を実施する必要があると考えている。また、すでに指摘も

あったが、昨年の政権交代からある意味では初めて一からの予算編成ということになり、まさに政権交代の真価が問われる予算編成だと思っている。

そういった中で、新成長戦略を実現するためには、その柱である科学・技術を強力に推進していくことが必要である。本日報告をいただいたアクション・プランは、新成長戦略を実現するための予算編成のプロセス改革の第一歩であると、このように受けとめている。今後、本格化する来年度の概算要求においては、関係府省と密接に連携しつつ、総合科学技術会議が科学・技術政策の司令塔として機能を発揮し、施策の重複排除を行っていくことが重要であると、このように期待をしている。これによって、科学・技術関係予算においても、重点化、効率化を進めるとともに、本当に効果的なところに予算が配分されるよう、まさに司令塔としての機能を発揮していただくことを期待している。

今回策定されたアクション・プランに基づく質の高い予算編成に向けて、各関係府省の最大限の努力をあわせてお願いをして、私のあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしく願います。

(報道関係者退室)

【平岡科学技術政策担当副大臣】

以上で会議を終了する。

なお、前回の議事録と本日の資料は公表させていただきます。